



中秋の名月

野口幹夫

9月17日の夜は中秋の名月でした。幸い夜は晴れて
ほぼ満月だった月はきれいに見えました。海岸通りに
行けばすすきは沢山あったのですが、最近はやばか

りですすきはめったに見あたりません。残念ながらすすきも団子もなくてただ眺めるだけでした。調べてみるとすすきの穂を飾るのは稲穂をまねたもので、今年のお米の豊作を祈るという意味でした。ご存じでしょうか、安定していた米について今年は異変が起きました。日本では戦後、若い世代の米離れが影響して米の需要が減り、米余りが続き、農政は減反政策で生産量を減らし、価格は低く抑えられてきました。

ところが今年は6月頃から、米が店頭から姿を消し、米の値段が20%も上昇するという異変がおきました。理由はたまたま去年が酷暑でコメの収量が減り、在庫が減ったところに、インバウンド増で、海外観光客は滞日中、伝統的な日本の米食中心の食事を求めたから、米の需要が急増したのだそうです。

9月に入り今年の新米が出始めたので需要と供給のバランスはとれるようになると期待されていますが、米の値段はいったんこれまでにない上昇を経験したら、常識が変わり、実態は燃料費や肥料などコメの生産コストが上昇しているのです、今後も高い状況は続くそうです。



長い間の減反政策と米農家の農民減少で簡単には増産には向かわないでしょう。

こんな事情を知ったからには、今年の中秋の名月に米の豊作を祈らざるを得ませんでした。